

新入生オリエンテーション 講話

2022/04/04 8:40～9:10、13:40～14:10

対象：

午前：医学科・看護学科・前半

午後：医学科1年次・看護学科・後半、医学科編入・看護学科編入

みなさん、こんにちは。
理事・副学長の山本です。

まず初めに、新入生のみなさん、入学おめでとうございます。
そして、ようこそ浜松医大へお越しくございました。ありがとうございます。
今年は、桜もみなさんの入学を待っていて、あちこちの桜がとってもきれいで
すね。毎年思います。いいですね、とってもいい季節になってきましたね。桜が
咲き乱れている様子は、みなさんの喜びを表しているような気がして、大学全体
が嬉しい気持ちを表しているような気がします。

今年も、ご承知のように新型コロナウイルス感染症拡大のために、こうして新入
生を午前と午後の二組に分けるという変則的な対応を取らざるを得ない状況で
す。

このような状況を踏まえ、やはり今日お話しておかなければいけないことは、新
型コロナウイルス感染症拡大防止に関係することです。

1) 君たち学生ひとりひとりに自覚ある行動を求む

まず一にも二にも、君たち学生ひとりひとりに自覚ある行動を求めます。

どのような自覚なのか、何を自覚してほしいのか。

すべての学年の学生諸君は、浜松医科大学に属するものとして、自らが医療従事
者の一人であるという強い自覚を持って下さい。そして医療従事者として、自分
が感染しない、まわりの人を感染させないという決意のもとに、常に最大限の感
染対策を取って生活してほしいということです。

自らが医療従事者の一人であるという強い自覚？ まだ医療従事者じゃない
ぞ？ と思う人がいるかもしれません。もしそう思っている人がいたら、
今の今からその考えを改めてください。

高学年の臨床実習・臨地実習については代替えの方法がありませんので、本学で
は附属病院関係者の献身的なご尽力により、病院での実習を継続しています。

もし君たちの中で、たった一人でも、陽性疑いの人が出れば、その人から友達、先輩、教職員を感染させている疑いがあります。病院実習に入っている学生にも感染している可能性があります。君たちは全員医療機関に属する人間なのです。医療人としての自覚と振る舞いを社会から求められている人間なのです。その自覚を持って日常生活にも細心の注意を払って生活してください。それが、君たち自身を感染から守ることにつながりますし、病院職員、教職員、同級生や先輩に、そして誰よりも患者さんに迷惑をかけないことにつながります。私が君たちに「医療従事者の一人であるという強い自覚」を持ってほしいと言った意味は分かりますよね。君たちは浜松医大の一員である以上、医療従事者としての自覚をもたなければいけません。そのことを絶対に忘れないでください。

2) こころの健康を保つ

さて、もう一つ新型コロナウイルス感染症に関連して、みなさんは「コロナ鬱」という言葉を聞いたことがありますか？自宅待機が多くなると家庭内暴力が増加するという報道もあります。世の中、自粛自粛自粛。外に出てはいけない、気晴らしもできない、世の中全体が日々悪い方向に向かっているような気分になることがあります。その結果、不安や恐怖、怒りにつながったり、抑うつ・不眠といった症状になったりする場合があります。

忘れないでください。このような反応は誰でも起こること、ある意味自然な反応なのです。

しかしその反応が長く続いてこころの健康を害することのないよう、その予防のため、大学の保健管理センターは「新型コロナウイルス感染症流行期に、こころの健康を保つためにできること」という案内を出してくれています。印刷物が昨日みなさんにも配布されていますので、是非参考にしてください。

また、教員と話をしたいとき、学務課の人たちに聞きたいことがあるとき、学生相談の窓口がいくつかあります。先ほどお話した「新型コロナウイルス感染症流行期に、こころの健康を保つためにできること」という案内にも書かれていますし、大学のHPを見てもらえば分かりますので、ぜひ活用してください。相談というほど大げさなものでもなく、学務課がその窓口になってくれますので、分からないことがあったり、不安を抱えている場合は連絡をください。

3) 浜松医学校について

私は浜松医大の一期生。昭和49年入学、55年卒業です。

浜松医大は、昭和49年、1974年に開設。当時、いわゆる「無医大県解消」の政

策に基づいて、最初のころにできた国立の医科大学です。

さて、浜松にはもともと医学校があったということを、みなさんご存知でしょうか？

浜松医大の開学からさかのぼること「ちょうど 100 年」1874 年に浜松には医学校が開設されています。「県立浜松病院附属医学教場」といいまして、県立病院に設置された医学校でした。その後は、浜松県の廃止を経て、残念ながら廃校になってしまいました。

その間、「七科訳説」という日本最初の西洋医学書が浜松医学校から出版されています。これは、ペンシルバニア大学が刊行した「医学大鑑」の翻訳を手がけ浜松で出版したものです。内容は、解剖学・生理学・化学・薬物・内科・外科・産科の七科に及ぶことからこの書名がつけました。原本は、浜松市の中央図書館と本学の図書館にあります。

このような歴史ある医学校開設から、ちょうど 100 年後に浜松医大ができたというのは偶然ではないような気がしますし、当時「なんとか浜松へ医科大学を！」という、浜松医師会の方々はじめ地域の方々の強い思いがあったことと無関係ではないと思います。

みなさんは、1874 年にできた浜松医学校の魂を受け継いでいる伝統ある地「浜松」で「医学を学ぶんだ」という誇りを持ってください。

3) そして、最後に

私はみなさんが成長して、立派な医療人として羽ばたいていくのを、とっても楽しみにしています。そんな人たちとの出会いに感謝して、私のお話を終わりにします。

ご清聴ありがとうございました。